

# 「小・中一貫教育校構想」に関する論点と考え方

## 幅広いご意見を聞きながら 基本方針検討へ

◆小・中一貫教育校のイメージ

★確かな学力の向上 ★豊かな人間性の育成

### 9年間の一貫教育

9年間の学年区分

区分	学年	校舎	指導形態	主なねらい
I期	1～2年生	各小学校	学級担任制	○学校生活の定着 ○学び方の基礎的習得
	3～5年生			○基礎学力の充実 ○基礎・基本の確実な習得
II期	6～9年生	中学校	教科担任制 (一部学級担任制)	○個性・能力の伸長 ○課題解決能力の育成

「コミュニケーションスクール構想」

「強固な連携 ゆるやかな一貫」

①基礎学力の充実 ②選択学習の充実 ③地域(三鷹)学習  
④英語教育 ⑤IT教育

これらを実現するために、人員配置を含めた指導体制の充実と、学習環境の整備を図っていきます。

平成16年2月から3月にかけて開催した市立小・中一貫教育校構想に関する説明会などで、保護者や市民の方々からご意見やご質問をいただき、その内容を集約して、現段階における教育委員会としての考え方をまとめました。その概要をお知らせします(教育委員会指導室のホームページに全文を掲載)。

特に意見の多かった6年生の中学校舎へ

#### 今、なぜ小・中一貫教育校か

確かな学力の向上と地域と一体となった魅力ある学校づくりを

●現行の義務教育の課題は？  
都市化、核家族化、少子化などにより代表される社会の急激な変化は、学校教育にも大きな影響を与えています。いじめや不登校の問題、学級崩壊、非行・問題行動などといった心に起因する問題、子どもの学習意欲低下など、これらの問題解決は決して容易なことではありません。保護者や地域の願いは、「子どもが安心して通える学校」であり、「確かな学力を保障してくれる学校」にあると考えます。

9年間の義務教育において、「子ども一人ひとりに確かな学力を身に付けさせ、豊かな人間性を育成することができる学校」「子どもたちが当面的なさまざまな課題に、地域社会と一体となって解決することができ、学校」「特色ある教育実践を集約して学校運営を行い、より一層の教育効果をあげる魅力ある学校」をつくるために、小・中一貫教育校が有効であると考えます。

三鷹市基本構想(平成13年9月市議会決議)に即して、「子ども一人ひとりがいきいきと育つ学校教育の実現に向けて、基礎的、基本的な内容を

の移行については、平成17年4月実施は困難な状況にあります。また、9年間の一貫カリキュラムの編成については、平成17年度から実施できるものから実施していきたいと考えています。

今後、さらに保護者、市民のみなさんと意見交換を実施し、幅広くご意見を聞きながら基本方針(素案)を作成していきます。

↓指導室☎内線3245

重視した指導を行うとともに、新しい教育課題への取り組みを進めます。また、地域と綿密な連携を図り、多様なニーズに対応できる三鷹らしい教育を目指します。

●小学校から中学校への段階とは？  
中学校に入學すると、小学校最上級生から中学校低学年という学年の位置付けや、複数の小学校から一緒にいるという関係の変化、学級担任制から教科担任制への変更、英語、技術・家庭科、選択教科等の新しい教科の学習、部活動への参加など、子どもにとって学習環境に大きな変化があります。このことは、小学校での各学年進行による変化と比較すると大きな差としてとらえられます。

この段階により、中学校入学時に学習や人間関係に不応を起す子どもが見られます。不登校が中学生で急増するひとつの要因ともいえます。

中学校では一人ひとりの実情を把握し、十分配慮した適応指導を行っています。6・3制の越えがたい課題と

#### 9年間を通じた学習指導のねらいの重点化

●2・3・4制のメリットは何か？  
2・3・4制(上表参照)は、現行の6・3制を要する制度区分ではなく、9年間の

その大きなメリットは、小学校と中学校とのカリキュラムの無理のない接続とねらいの重点化を図ることにより、確かな学力をつける学習指導が充実することにあります。また、中学校生活の後半から高校の入学選抜の影響を少なからず受けていることから、この時期を4年間とすることで、ゆとりをもって個性・能力の伸長に努めることが期待されています。

2・3・4制の実施にあたっては、説明会や今後の意見交換会での保護者や市民の方々からの意見を踏まえ、開設準備検討委員会で十分検討していきます。

#### カリキュラムの編成と教育的効果は

●カリキュラムはどのようになるのか？  
9年間の一貫したカリキュラム編成により、義務教育9年間を見通した学習が行われるようになります。教員にとっては、授業のあり方を振り返り、改善する契機となります。

小・中一貫教育校については、現在全国で22地区が取り組んでいますが、国の構造改革特区の認定を得ることにより、従来の学校の施設・設備を大きく変えることなく、小・中学校間での子どもたちの交流や教員の交流、そしてカリキュラムの一貫化を通して小・中学校間の接続を図り、9年間の一貫した教育を行うことが可能になります。

このことは、子どもたちの確かな成長への大きな布石になると確信します。

#### 英語教育・IT教育の必要性は？

この小・中一貫教育校の教育の特色のひとつである英語教育やIT教育は、これからの社会で生きていく子どもたちにとって必要な能力を育てるものであると考えます。小学校の段階でこれらの教育を取り入れていくことで、英語でいえば、相手と積極的にコミュニケーション能力が高まり、子どもたちの成長にとって大きな力

#### 指導体制の充実とは？

小・中一貫教育校では、全ての教育活動を東京都の教員だけで運営することは考えておりません。ALT(英語指導助手)や補助教員などの採用には市の財源も充当し、指

#### 補助教員などの配置で指導体制を充実

導の充実を図っていきたくないと考えています。また、東京都に対して、小・中一貫教育に意欲をもち、小学校と中学校両方の免許を取得している教員の配置を強く要請していきたいと考えています。

#### 開設に向けた今後の取り組み

次のスケジュールで、保護者、市民のみなさんのご意見を十分に聞く機会や準備期間を設け取り組んでいきます。

- 5月以降
- 二中学校区の保護者、市民との意見交換会の実施
  - 基本方針(素案)の作成
  - 二中学校区の保護者、市民との説明会の実施
  - アンケートの実施
  - 基本方針(案)策定
  - 基本方針の確定
  - 開設準備検討委員会の委員募集

- 秋ごろ
- 開設準備検討委員会の設置
- 学校関係者、PTA、保護者代表、同窓会代表、地域市民代表、公募市民、学識経験者などのメンバーで幅広く意見を聞きながら、開設準備にあたっての検討を進めます。 →指導室☎内線3245

#### 保護者・市民のみなさんとの意見交換会日程

- ◆5月22日(土)午後2時から二小体育館
  - ◆5月24日(月)午後2時30分から井口小体育館
  - ◆5月25日(火)午後7時から二中体育館
  - ◆5月28日(金)午後7時から三鷹市公会堂別館会議室
- ▶当日、直接会場へ。  
※会場が体育館の場合は、上履きをご持参ください。

力に伸びていくことが期待されています。

また、IT教育は、コンピュータの操作能力や情報活用能力だけを指すものではなく、現在既に社会問題となっ

#### 小・中一貫教育校への移行は段階的・弾力的な実施を検討

●現行制度での対応は？  
三鷹市では、現在でも小・中学校における交流・連携教育が進められつつあります。しかし、小・中学校別校舎における教育活動の延長としての交流・連携教育であるため、日程の設定および内容の調整に手間取っており、教員間の共通理解を深め、職種を超えて指導し合い段差を解消するほどの成果を期待するには、限界があります。

小・中一貫教育校による取り組みは、この課題の解消に向けた成果が期待できます。

●移行方法の検討は？  
6年生の中学校校舎への移行については、平成17年4月実施は困難な状況にあります。そこで、今後さらに幅広く意見を聞きながら基本方針(素案)を作成する中で方向性を定めていきます。

ひとつの方策として、段階的・弾力的な実施を検討していきます。例えば、9年間の一貫したカリキュラムに基づき、小・中学校の教員の交流・連携による授業を行うとともに、6年生が中学校校舎で学習することで一層効果が上がる内容(英語活動や理科の実験、選択教科など)について、一定期間中学校に通学するといった方法が考えられます。

#### カリキュラムの編成と教育的効果は

●カリキュラムはどのようになるのか？  
9年間の一貫したカリキュラム編成により、義務教育9年間を見通した学習が行われるようになります。教員にとっては、授業のあり方を振り返り、改善する契機となります。

小・中一貫教育校については、現在全国で22地区が取り組んでいますが、国の構造改革特区の認定を得ることにより、従来の学校の施設・設備を大きく変えることなく、小・中学校間での子どもたちの交流や教員の交流、そしてカリキュラムの一貫化を通して小・中学校間の接続を図り、9年間の一貫した教育を行うことが可能になります。

このことは、子どもたちの確かな成長への大きな布石になると確信します。

#### 英語教育・IT教育の必要性は？

この小・中一貫教育校の教育の特色のひとつである英語教育やIT教育は、これからの社会で生きていく子どもたちにとって必要な能力を育てるものであると考えます。小学校の段階でこれらの教育を取り入れていくことで、英語でいえば、相手と積極的にコミュニケーション能力が高まり、子どもたちの成長にとって大きな力

#### 指導体制の充実とは？

小・中一貫教育校では、全ての教育活動を東京都の教員だけで運営することは考えておりません。ALT(英語指導助手)や補助教員などの採用には市の財源も充当し、指

#### 補助教員などの配置で指導体制を充実

導の充実を図っていきたくないと考えています。また、東京都に対して、小・中一貫教育に意欲をもち、小学校と中学校両方の免許を取得している教員の配置を強く要請していきたいと考えています。

#### 開設に向けた今後の取り組み

次のスケジュールで、保護者、市民のみなさんのご意見を十分に聞く機会や準備期間を設け取り組んでいきます。

- 5月以降
- 二中学校区の保護者、市民との意見交換会の実施
  - 基本方針(素案)の作成
  - 二中学校区の保護者、市民との説明会の実施
  - アンケートの実施
  - 基本方針(案)策定
  - 基本方針の確定
  - 開設準備検討委員会の委員募集

- 秋ごろ
- 開設準備検討委員会の設置
- 学校関係者、PTA、保護者代表、同窓会代表、地域市民代表、公募市民、学識経験者などのメンバーで幅広く意見を聞きながら、開設準備にあたっての検討を進めます。 →指導室☎内線3245

#### 保護者・市民のみなさんとの意見交換会日程

- ◆5月22日(土)午後2時から二小体育館
  - ◆5月24日(月)午後2時30分から井口小体育館
  - ◆5月25日(火)午後7時から二中体育館
  - ◆5月28日(金)午後7時から三鷹市公会堂別館会議室
- ▶当日、直接会場へ。  
※会場が体育館の場合は、上履きをご持参ください。

#### カリキュラムの編成と教育的効果は

●カリキュラムはどのようになるのか？  
9年間の一貫したカリキュラム編成により、義務教育9年間を見通した学習が行われるようになります。教員にとっては、授業のあり方を振り返り、改善する契機となります。

小・中一貫教育校については、現在全国で22地区が取り組んでいますが、国の構造改革特区の認定を得ることにより、従来の学校の施設・設備を大きく変えることなく、小・中学校間での子どもたちの交流や教員の交流、そしてカリキュラムの一貫化を通して小・中学校間の接続を図り、9年間の一貫した教育を行うことが可能になります。

このことは、子どもたちの確かな成長への大きな布石になると確信します。

#### 英語教育・IT教育の必要性は？

この小・中一貫教育校の教育の特色のひとつである英語教育やIT教育は、これからの社会で生きていく子どもたちにとって必要な能力を育てるものであると考えます。小学校の段階でこれらの教育を取り入れていくことで、英語でいえば、相手と積極的にコミュニケーション能力が高まり、子どもたちの成長にとって大きな力